

若手研究者コラムリレー

藤原 昌太 (ふじわら しょうた)



プロフィール

鎌倉女子大学家政学部家政保健学科 講師
本学会の専門領域: 保健、体育哲学
E-mail: fujiwara@kamakura-u.ac.jp

瀬戸内海小豆島生まれ

2007年 東海大学大学院体育学専攻(修士)
2016年 了徳寺大学 講師
2020年より現職

【趣味】

海遊び(釣り、アウトリガーカヌー)
土いじり(草抜き、サツシング、野菜作り)
虫(クワガタ、カブトムシ、トカゲ)
キャンプ、散歩、園工

【好きな言葉】

学遊一如



わたしの研究

保健ってなんだ？ 健康ってなんだ？

中学・高校の保健体育教師を目指し進学した大学で「保健」に出会いました。小・中・高で保健の授業を受けていたにも関わらず保健と出会っていなかったのでしょうか。保健について微塵も意識しないまま、いわゆる「体育教師」にならしてしまいました。そんな中で保健科教育学を学び、保健授業の面白さ、重要さを認識し現在の道に進みました。生活習慣の乱れや、メンタルヘルス、性に関する問題など子供たちは様々な健康課題を抱えています。そういった課題に直接アプローチできる保健の授業が社会的に期待されていないどころか認識すらされていない状況に問題意識を持ったのが最初です。保健の授業について研究するなかで、人間の身体観について、そもそも健康とは何か、健康を教えるということはどういうことなのかを哲学的に追求することもしました。また学校現場の先生方と協働し、課題把握、授業モデルの構想、実践、評価するアクションリサーチモデルを取り入れた授業介入研究を行なっています。研究者と教師のみならず、授業で取り上げる健康課題についての専門家を招いて授業を行うことは、子供たちの学びにとっても有効であることが明らかになりました。さらに外部者との連携は教師の授業力の向上に寄与できる可能性もあるだろうと研究を進めています。文科省は「開かれた教育課程」を目指し、教師の連携、地域連携、効果検証の3つを軸にカリキュラム・マネジメントを推進していますが、閉ざされがちな学校の授業に、社会の教育資源(人、物、時間、お金、情報)をうまく取り入れ、「開かれた授業」にできるような仕組みをデザインすることが今後の研究課題です。

わたしの愛読書

中島らも 『お父さんのバックドロップ』学習研究社,1989

(なんでも帳)

もはや若手ではないのでこのコラムの執筆を一旦はお断りしました。しかしながら、あちこちで高齢化が進んでおりますが、本学会も御多分に漏れず高齢化ということで、年齢制限が撤廃？拡大？したようでお引き受け致しました。ここにはなんでも書いていよいよということですが、何を書こうかなと過去のコラムを拝見しておりましたところ、vol.37の坂本拓弥先生のなんでも帳の「効率化」の内容に非常に共感いたしました。

先日学生と有名ラーメン店の話をしていたところ、長蛇の列に並んでまで美味しいラーメンを食べることは「タイパ」が悪いということを書いていました。また音楽や映画も倍速で鑑賞するのが今どきだそうです。ゆっくり時間をかけて、何度も何度も試行を重ねて、熟考という行為は忌み嫌われ、効率的に、最短ルートで、自動で、といった行為が望まれるのでしょうか。坂本先生が「初めてできた恋人と一緒に下校する時、google mapの示す最短ルートで効率よく帰りたくはないはずです」とおっしゃっていますが、もはやその感情は失われているかもしれません。帰るのだから最短がいいでしょ、と。

どちらの考えが良いか悪いかということではないですが、身体活動や思考活動は避けられ、身体は確かにそこに存在しているけれど、身体は無用で、思考も無用な得体の知れない何かが存在する世界になるのではないかとぼーっと考えるという、まさにタイパが悪いことを実践している今日この頃です。

最高に楽しい時間です。

日本体育・スポーツ・健康学会 若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育・スポーツ・健康学会若手の会が発足しました！→ [メーリングリスト登録フォーム](https://goo.gl/forms/zGMPdPq5fY3kcB5q2)：
<https://goo.gl/forms/zGMPdPq5fY3kcB5q2>

学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。

taikugakkaiwakate@gmail.com

